

令和 5 年度 第 2 回 河北町総合教育会議 会議録

1 出欠席者氏名

河北町長 森谷 俊雄、河北町教育長 板坂 憲助

河北町教育委員 児玉 康子、木嶋 真一、榎 ふみえ、庄司 泰寛

欠席者（0 名）

2 事務局職員の職氏名

学校教育課長 秋場 弘昭、生涯学習課長 日下部 敦子

教育主幹(兼)指導主事 吉田 仁志、指導主事 秋葉 千絵

教育総務係長 古澤 悦子

3 日 程

令和 6 年 3 月 21 日（木）午後 3 時 00 分 開会 河北町役場 3 階 302 会議室

1 開会

2 町長あいさつ

3 協議

(1) 河北町立小学校整備に向けた基本方針（素案）に対する意見をうけて

(2) 河北町中学校における休日の部活動の地域移行について

4 その他

5 閉会

1 開会

古澤係長

定刻となりましたので、只今より、令和 5 年度 第 2 回河北町総合教育会議を開催したいと思います。はじめに町長あいさつを森谷町長よりお願いします。

2 町長あいさつ

森谷町長

本日第 2 回目の会議ということで、大変ありがとうございます。

先週、議会が終わりまして、来年度予算 107 億円ということで、今年と比べて、当初予算ベースで、3.6%の伸びという状況です。大きな事業で言うと、動物園のリニューアルで約 1 億 7000 万、押切地区の排水設備整備に大体 1 億 7000 万。河北幼稚園が、ちびっこホームと幼稚園を一体的に認定こども園として保育ニーズに対応したこども園にしていくということで、そこに対する支援で 2 億 3000 万ほど支援する予定です。その三つで、大体 4 億円程度の伸びとなっています。あと組織的に申し上げますと、こども家庭庁に合わせて、今まで健康福祉課の中にありました子育て支援室をこどもみらい課という形で、健康福祉課から独立した課として新しい課を設置いたします。移住定住、公共交通あるいは生活環境を所管してるまちづくり推進課ですが、組織目標を明確化することということで、住み続ける人、あるいは河北町に新たに住もうと興味を持っていたけるように、くらし応援課という形で組織名称を変えております。4 月 1 日からその体制で進める予定ですので、御承知おき頂ければと思います。もう一つは、子育て支援と教育は非常に密接に絡んでくるわけですが、放課後学童クラブについて、以前は 3 年生くらいまでの利用が多かったのですが、現在は引き続き高学年の利用も多く、子供は減少していますが学童へのニーズは非常に多い状況です。中部小学校区の利用が非常に多く、西里の学童を利用してもらうなど、きょうだい間で行き先が違い、保護者の負担になっているということもあり、去年 2 回ほど教育委員会も入り話をしたところです。厚労省、あるいは、文科省のほうでも、学校の施設をタイムシェアして、学童で利用するというような流れもあり、4 月からは子育て支援の学童の部分だけを学校教育課のほうに移管し、人事組織の具体的な検討を進めているところであります。

これまで 2 年間かけて議論頂いてる小学校のあり方、さらには老朽化が進んでいる中学校との関係も含めて、2 月に教育委員会としての基本的な整備についての考え方を素案としてまとめ、教育長を中心に各地で説明会を行いました。3 月議会でも質疑があり、今後小学校整備と老朽化が進む中学校の関係も含めて具体的な検討にこれから着手しようというところです。部活動のあり方も全国的な課題になっております。本日、途中経過的なところもございますが、現在どういう意見が出ているか、今後の進め方をどうするかをこの場で様々御意見をいただきたいと思います。本日はよろしく願いいたします。

古澤係長

それでは、協議に入らせていただきたいと思います。座長につきましては、町長をお願いいたします。協議の順番については(2)→(1)の順でお願いします。

3 協議

森谷町長

それでは、「河北町中学校における休日の部活動の地域移行について」、説明をお願いします。

日下部課長

それでは私から休日の部活動の地域移行について説明させていただきます。御手元の資料に沿って説明させていただきます。地域移行につきましては、前回の総合教育会議以降の進行状況について私から説明させていただきます。12月ですが、18日と19日にかけて、スポーツ団体と文化団体に対し、休日の地域移行に関する説明会を実施いたしました。説明会の中ではグループ討議を実施し、様々な課題など話し合っていました。スポーツ団体と文化団体それぞれ別日に説明会を実施しました。スポーツ団体からは、今後の方向性、安全管理、けがや事故があったときの対応をどうするか、保険はどうなるのか、指導者についても、確保がなかなか難しいとか、資格はどうなるのかというような御意見、中学校の指導者の方と地域の指導者の方の間でどうやって情報共有をしていったらいいかなど様々な意見が出されたところです。町の方からは、町の方針として一人一人に合った、様々な選択肢を子供が持てるようなスポーツ環境を整えていきたいというような考えをお話しさせて頂いたところです。文化団体につきましては、町の文化に触れるいい機会になるという好意的なご意見と、協力はしたいけれども、文化団体の指導者も高齢化している中で、活動したいといったときに指導できるのか、という御意見を頂いたところです。町としては、今回頂いた御意見を参考にしまして、今後、地域移行に向けて様々な課題解決をしながら進めていきたいと思っております。その後、スポーツ団体についてはスポーツ少年団や、クラブの方で、地域移行と同じような形態で活動している団体に、個別にヒアリングを実施しております。その結果、3ページのほうにあります卓球、剣道、柔道、カヌーの団体にヒアリングを行い、早いところでは卓球とカヌーで令和6年

の10月ぐらいから地域での活動を実施しようという話を頂いているところです。また、剣道も現在中学生を受け入れる形でスポーツ少年団活動をしていいますが、今のところ地域移行という形にとらわれず現在の活動を継続したいというお話でした。柔道は、地域移行の体制が整えば取り組んでいきたいと。規約や、様々な体制が整った段階で協力できるというようなお話を頂いているところです。こういったお話を受けて、令和6年度中に活動できるところから体制を整えていきたいと考えております。

資料2を御覧ください。河北町における休日の部活動の地域移行の体制（案）になります。現在考えているのが、河北スポーツクラブの中に新たに中学校部活動地域移行事業という新たな部門を設け、そちらに地域移行をする団体、指導者の方、そこで活動する中学生に登録していただき活動するような計画をしております。登録して頂いた団体につきましては、活動場所を今のところ学校施設を考えておりますが、施設利用料の減免を考えております。また、指導者の資格要件については、ある程度の資格要件は設定すべきだと考えております。中学生につきましても年会費とスポーツ保険料を頂き、活動したいクラブのほうで活動していただくという形で考えているところです。本日午前中にスポーツクラブの役員会有り、こういった内容を説明させていただき役員の方には御了承頂いているところです。

資料3を御覧頂きたいと思います。今後のスケジュールを記載させていただいております。上から3行目、河北中学校では今年の4月から部活動は任意加入となっております。そして休日の部活動は土日のどちらかを休み、令和6年度からは月に1回以上は土日のどちらも休み、令和7年度からは月2回以上は土日のどちらも休み、令和8年度以降は休日は部活動をしないというような予定になっております。こういった予定になっておりますので、これに変わる形で地域移行後のクラブ活動の体制づくりをするわけですが、上から2行目の地域クラブにつきまして先ほど説明させていただいたように、組織体制が整った活動団体について、地域での活動開始するということで、準備が整い次第、令和6年の10月頃から活動していただくという予定をしております。教育委員会では地域のクラブ、中学校などを取りまとめるコーディネーターの配置に向け人選を進め、令和6年度中の早い時期から、体制づくりをしていきたいと思っております。また、

クラブを実施する際に、部活動改革のガイドラインを策定する予定ですが、こちらは県の部活動のあり方に関する方針というのが令和6年の年末頃に改訂ということですので、その改訂を見ながら、令和6年度中に町の方針も改訂していきたいと思っております。1番下の欄ですが、中体連になります。中体連のほうも、今年度から、クラブチームの参加も可能になるなど、改革が進んでおります。最終的には令和8年度からは中学校での休日の部活動がなくなるということですので、地域での活動が円滑にいくように進めていきたいと考えているところです。今日お示しさせていただいた資料については、本日令和5年度の第3回目の検討協議会がありますので、そちらのほうでも同じ資料で説明させていただきます。私からは以上になります。

森谷町長

説明がありましたけども、皆さんほうから、確認しておきたいことなどありましたらお願いします。

児玉委員

河北スポーツクラブを受皿団体にするという話がありましたが、文化系団体の受け皿についてはどのように考えていますか。

日下部課長

文化系団体もこの中に入れるように考えております。現在はどちらかというとスポーツ系だけ今進んでるような状況なんですけど、文化系も受けていただける団体が出てくれば、スポーツクラブのほうに入れて実施しなければならないのかなと思っております。

森谷町長

名称なんかも変更になると。

日下部課長

そうですね。まだ具体的な名称は考えてないんですが、文化系だけ別にということは考えていません。

森谷町長

どこの市町村でも検討進めていると思うんだけど、スポーツ系と文化系の受け皿を両統立てしていくところと、うちの町で考えているように一統立てで行くところとどちらが多い？

日下部課長

具体的にはわかりませんが、分けてやっているところはあまり聞きません。事務局の中では同じところでやったほうがやりやすいのではないかというところ
です。文化部のほうは、現在土日活動してる部活は吹奏楽部ぐらいしかない状況
です。吹奏楽部を受入れられるところはないので、文化部に関してはそこまでの
話は具体的になっていないのが状況です。

児玉委員

この間茶道連盟の集まりがあったときに、河北町は動きがないよねという話を
ちらっと耳に挟んだんです。ただ、ほかの市町がどの程度進んでるのかとちょっ
と分からないので、例えば河北町もこれだけで言うはずっとスポーツだけが進ん
でしまって、例えば吹奏楽じゃない文化部をやりたいという子がいたとしても、
その子たちが今土日やっていないんだから、やらないものとしてこの体制をつく
っていくのか、そういう子たちももしかして今後の道が開かれるような体制をつ
くっていくのかっていうのはどんなものなのでしょう。何か少し余力を残してい
ってもらえたほうがいいのかと思うんですが。

森谷町長

今の河北中の文化部は、土日も基本的にやってるんですか。

日下部課長

吹奏楽部はやっています。寒河江だと、寒河江吹奏楽団があるので、寒河江吹
奏楽団のジュニアのようなものをつくって受入れできるかなというお話はして
いると聞いています。河北町で果たしてそういったことができるかという、そ
ういった組織もないのかなと思ってます。ただ文化団体の話の中で、こういった
機会にいろんなものを経験してもらうのもいいんじゃないかというようなお話
が出てるとお聞きしてますので、部活動イコールではなくて、地域の活動に中学
生に参加していただくというような、本当に地域のクラブ活動の中に入る形をつ
くっていったほうが、文化部に関しては、いいのかなと思ってます。

森谷町長

吹奏楽部なんかはどこか中学生を受け入れられるのか？

日下部課長

結局、活動場所は楽器があるところでしかできないのかなと思うので、別なと

ころで受けていただくとしても課題があります。

木嶋委員

河北スポーツクラブなので、これは河北町民じゃないと駄目だっていう考えがあるんでしょうか？さっき文化部の話もありましたが、以前だと河北中の卓球が強いので、とにかく卓球を頑張りたい子は住所を移してでも河北中でやる子もいたように、もっと広範囲の中で、ほかの市町村の人も、河北スポーツクラブの卓球のほうに来て、練習を積むとか。さっきの吹奏楽部にしても、吹奏楽部が強い高校があると思いますが、そういうところで自分の技量を高めてくるとか、そういう交流ができるようにして、連携を取り合っていくとか。子供も少なくなって、なかなか難しいと思うので、広域で各市町村の連携っていうことも考えないといけないのかと思いますが、どうなんでしょう。

日下部課長

将来的にはそういった広域の連携というのは必ず出てくるかなと思っています。今やってる町内のクラブとかでも、町内の方限定にはしていないと思います。限定してしまうと、いずれ活動ができなくなってくると思うので。

木嶋委員

さっき吹奏楽部の話でありましたが、河北町に受け皿がなくフォローできない場合は、寒河江市とか他の市町村と一緒に混ざって活動するという話になってくるのかなと思います。

日下部課長

そういう話は今度必要になってくると思う。

庄司委員

それがこのコーディネーターの役割になってくるんでしょうか？

日下部課長

広域の連携については、県が主導になってやってくださるということですので、コーディネーターはあくまで、地域の団体と町とか中学校とかそういったところのコーディネートをしていただくということで、考えています。自治体を越えた連携ということだと、まずは県に相談をかけて、県が主導して、全体の連携をまとめていくというふうな形に今のところはなってます。

板坂教育長

広域の話は出ておりまして、1市4町のまずは協議会をしましょうということで、来週の25日、寒河江市で予定しています。地域移行の発想は都会的な発想で、小さな地方都市には向かないんです。せめて生徒の数も減ってる生徒のニーズに応えましょうって考えたときに、広域にならざるを得ない。だから今あった吹奏楽部だったら寒河江で、卓球だったら河北でとか。その中において問題になってくるのは、移動手段とか、謝金とか、安全性とかの問題が出てきます。これを常日頃指導してる今までの指導者が、今まで以上に責任感が出てきて、それだったら今のままのクラブの方がいいなんていう意見も聞きます。その辺の調整、情報共有が、これから必要だし、その1回目か2回目か分かりませんがそれぞれの1市4町の担当者と教育長が集まって情報共有をすることになっています。

森谷町長

都市部と、子供たちが少なくなってる地域とで、これからの部活、中学生の文化活動なりスポーツ活動をどういうふうに地域で指導していくか。県の教育委員会で、来年度ガイドラインを示すわけですが、山形市とこういう郡部のところで抱えている問題は異なるだろうし、少子化の中でも、どういうふうに希望する受皿をつくれるのか、やっぱり田舎は田舎としての課題があるので、それも踏まえた、広域的な対応も含めて考えていかないと。単に文科省が唱える地域移行というだけではなくて。こういった問題意識を県の教育委員会を持ってるかどうか。各市町村で河北町でこういう課題があるんだと、県のガイドライン策定の中では、ちゃんとそういった視点も入れたガイドラインを作ってほしいと、単に県のガイドラインを待つだけでなく、市町村からも言っていないといけないと思う。

槇委員

8年度からは完全に休日の一つが地域に移行するっていう形なんですけど、卓球やカヌーであれば令和6年の10月頃から移行できるかもしれないとのことですが、それまでに話が進まなかった部活動については強制的に8年度からは土日の活動ができなくなってしまうということなんですよ。

日下部課長

そうですね、地域での受皿団体の体制が整わないとなれば、土日は活動しないことになります。そういった場合に例えば河北町にはないけど寒河江市だったら

できる場合、寒河江市で活動するとかそういう形になる可能性はあります。

楨委員

例えば卓球だったら団体組めなくても個人で中体連とかってありますけど、バレーボールとかバスケットボールなど人数がいらないから参加できないとなるのであれば、広域でクラブチームとして活動するようにしないと、小さい学校、市町村なんかはもうエントリーすらできなくなってくるのでこの競技はこの広域クラブでとか、バスケットだったら寒河江のどこがいいからそこに集めてみたいな感じでやらないと団体競技がまずできなくなる。今度、部活運動部に入れないで、文化部に入る子も今増えて来てる話も聞くので、受皿を整えて早めに子供たちにこういうことできるんだよって教えてあげないと、もう最初から機会がなくなるのはかわいそうかと。

日下部課長

中体連に関しては、今年度からクラブチームも出場できるようになっています。クラブと学校両方で登録することはできないようですので、クラブで出るんだったらクラブとして出る形になります。近年の出生数を見ると将来的に広域で連携していかないと、人数が必要な団体競技はだんだんと活動が難しくなっていくかなと思っています。

板坂教育長

先日河北町で卓球のべに花杯がありましたが、いわゆる中学校で合同チームを組んで出場したところや、いわゆるクラブチームに入って出たチームがあるかどうかとかそこら辺わかる範囲で教えてください。

吉田主幹

中学校について合同チームで出たとか、クラブチームで出たっていうところはないです。全て学校で出ているという形です。ただ引率の形を見ると、先生でない人が引率をしていたり、地域のスポ少やクラブチームがあって、そのクラブがそのまま学校の部活動の全員構成者になって、先生が引率しないでクラブの指導者が引率してくるとか、そういったところは出てきていると思います。

森谷町長

河北町できちっと受皿ができればいいんだけど、やはりその辺は県の教育委員会でもちゃんと考えて山形のガイドラインをきちっと作ってもらわないと。

吉田主幹

ちなみに、西村山1市4町では現在進行形のところもあるんですが、来年度から全て部活は任意加入制にするということでした。だから、部活に入らない子供ももちろん出てくるし、平日は部活して土日は参加しないという子供も出てくる。やっぱそういったときに先ほど、河北中の動きでもありましたが、月に1回以上は土日もない。ということは、結局子供たちはそのときにスポーツができる環境がないということに直接的につながっていく。その次の年は月2回、もうそういう環境がなくなるっていうことに現実的になってきて、だとすると地域の方で受皿がなければ、どんどんスポーツ自体がやってる子供たちもいなくなるわけですので、衰退していくという形になっていくことがもう想定されます。そこで本当に地域の指導者の方とかが、受皿づくりについて町の子供たちを本当にどういうふうに育てていくのかと、これまで学校がやってきたことを本気でちょっと考えて進んでいかないと、衰退の一途を進んでいくことになるのではと思います。

森谷町長

そうするとね、義務教育の中で地方と都市部の格差が出るってことだね。

日下部課長

都市部には有料のクラブ、民間のクラブがあるので、そんなに悩まなくていいと思うんですけど、山形はモンテとか、公式のクラブはスイミングぐらいしかなく、土台がないので、同じような形にはなかなかならないかと。

森谷町長

本当にスポーツと文化、一緒にうまくいくのかなと。興味を持っている子供たちにどう活動させていくのか課題だね。

児玉委員

そうですね。何か休日の過ごし方みたいに結局なっていくように思いますね。

庄司委員

さっきの地域のつながり、ほかの人のクラブのつながりや、子供たちに体験させる必要があるという話が出たんですけども、実際今ここで話し合ってる中ではそういう子供たちに経験させる役割の組織の部分が今全然ないわけです。だとすれば、そういうところをどういうふうに、子供たちの活動の範囲を広げていくようなアドバイスができるようなところがあるのかなっていうのがちょっと疑問

に思ったので、その辺がコーディネーターの役割、そういうところでも何かアドバイスでこういうところもあるみたいな、子供たちにアピールできる立場の人材になっていくのかなとは思いますが、その辺はどうですか。

日下部課長

コーディネーターは今のところ、学校の部活動の状況の調査をして、地域の活動、活動の場、地域での受皿団体との調整役を考えてます。現在任意加入の中で、土日は休みますという子もいるようです。任意加入になって部活動に入っていない子で今年度ピエロちびとか、ボランティア活動に来てくれる子がいます。

森谷町長

そういう中では、卓球とかカヌーとか、それなりの河北町に指導者がいるところでは今年の10月ころから何らかの形で始めたいとのことなので、その先行事例を見ながら、そのほかの野球とかサッカーとかバスケとかも7年度や8年度に向けて続いてやってもらって、どうしても難しいところは広域的なクラブなども考えていくとくような流れに実質はなるのかな。

日下部課長

今、はっきりいつ頃というふうに目標の時期を示してくれてる団体はそれに向かってるかと思うんですけど、どうしても今現在同じような形でやってるけど、地域移行の団体だと名前をつけられてしまうと、責任が重過ぎてなんていうところも実際あるので、今、先行団体がどういうふうに行っているのか活動を見ていただきながら、少しずつでも増えていってもらえればと思っています。バスケ関係も、少しずつ動きがあるようですので、少しずつ続いていく団体が出てくればと思っています

板坂教育長

今、課題山積なんで、持続可能かどうかこれも大事だし、結果的に二極化していつてしまうのではと。本当の狙いは生涯スポーツ、生涯文化に親しむってことになるのですが、現実離れしてて、非常にそこがうまく進まない。

森谷町長

やはり県のガイドライン策定を待つだけでなく、市町村でも積極的に意見を言っていく方がいいと思う。まずはここで一つ目については以上でいいですか。ありがとうございます。

それでは、次に「河北町立小学校整備に向けた基本方針(素案)に対しての意見をうけて」ということで、2月に実施した各地域で説明会の状況や、議会等でも質疑があったことも含めて情報提供させていただいて、今後の進め方についてご意見いただければと思います。説明をお願いします。

秋場課長

基本方針の策定素案ということで、2月15日北谷地構造改善センターを皮切りに、説明会を行いました。あわせて72人の方から参加いただきました。2月15日の北谷地では、これから修正可能なのかとか、いじめ不登校、自殺への対応・対策をどう考えているのか、それに対する回答や、1番多かったのは1校に統合したその経緯が分からないというようなところ、具体的には、アンケートでも11%しかなかったのに、何で1校なんだという意見でありました。小中一貫校という説明をした中では、何で小中一貫校なのかと。今後統合した場合の小学校の校舎の利活用、あるいは、どこに建てるのかという質問がありました。意見ということで、資料のとおり出されております。2月19日は西里農村環境改善センターです。全体的には賛成なんですといいながらも、地域から学校がなくなるというのは寂しいという意見がありました。設置形態について、やはり小中一貫校と、義務教育学校の認識がなってないところがあったので、その辺の説明を求められたところもありました。3ページ、2月20日はサハトベに花で、2時からと夜の7時からと2回開催しました。通学についての具体的なルートとかバス通学について具体的に決まっているのか、学童についてはどうなるのか。今4つの学童がありますが、既存校舎の活用も含めてこれからの検討とか。統合には賛成だけでも、1校に決まった経緯、どこの会場でもその質問が多かったところです。どこに建てるかめどが立っているのかどうか。今の河北中学校の場所を想定しているということで、農地転用すればやはり時間もかかるし、河北中学校であれば敷地が1番広いという質問に対する回答をしております。小学校の新設だけでなく中学校の改築までするのか、予算的ないわゆる経費が大変だろうというような御意見等もあったところです。義務教育学校ではなく、小中一貫校にする質問等御意見も含めてありました。5ページは同じ2月20日でサハトベに花、夜の説明会ですが、学力の向上についての考えとか、小中を一体として整備をしていくという

のはこれで決定なのかというようなことの質問。小中一貫校ができ、小さい学校から一気に何百人となったときに負担が大きいのではないかなど質問や意見がありました。最終日、2月21日溝延研修センターでは、義務教育学校と比較して、小中一貫型中学校にしたのはなぜなのか、学校新設、それから30年後の利用者の見込みはどれくらいなのか、今後の人口について、どのような見込みを持っているのかという質問などもありました。基本方針にふるさと学習についてとあるが、行事等についても質問があったところです。学童はどうなるのか、合併するのか、場所をどこにするのかというような意見があったところです。自由な意見をということで、いろんな意見をお聞きして、それについては今後検討していくというところで、あえて回答はしていませんが、各会場から多くの御意見があったところです。議会の中で、国県からの補助についての質問があり、資料として準備したものがあるんですが、公立学校施設整備の概要についてです。右下に4ページとあるものですが、基本的に新築では2分の1、改築は3分の1などあるんですが、基本的に古くなったから、学校を新しくするということの補助ではなく、小学校を統合し、形を変えるものについて、2分の1の補助というものです。ですから義務教育学校となれば小学校と中学校も一緒になるので義務教育学校については2分の1の補助があると。例えば中学校と連携をする小中一貫型となると、補助の対象にはならないような内容になっています。裏面については学校施設整備の学校の統合に係る支援制度、いろんなパターンがあります。小学校を新しい敷地に統合する場合、2分の1の国庫負担がある。あるいは既存の小学校を学校統合に伴い増築する場合などについても2分の1の国庫補助があるというような、学校の規模を変えるときの国庫負担について示されています。今後とも参考にしていきます。資料は準備していなかったんですが、議会でも2人の議員から質問がありました。口頭でお話をさせていただきますが、鈴木議員からは1校に統合した場合、1校に統合するという理由は何だということ。その中で、町長答弁の中では小中一貫教育、これについては文科省の調査によると、9年間の一貫した学校教育目標やカリキュラムを設定して、小学校における教科担任制などを実施していく。その特徴を生かした取組、アンケート結果でも9割の実施校で成果が上がったという回答を得られていると回答しています。そうした先行事業を参考にしながら、河北町でも目指す子供の姿に迫るために、教育効果を高める、

現在の連携が一步進んだ取組を進める必要があるのではという考えを回答しております。校舎を新設する必要性についての質問がありました。何で校舎を新設しなければならないのかということですが、小学校のあり方検討委員会でも小規模校の良さについて意見が出されたんですが、その答申では、今後想定される児童数の急激な減少、子供の学びの環境の変化については大きいものがあると。一定規模の集団の中で多くの仲間と関わり、多様な考えに触れることは、社会性を育む上でもとても大切な経験であるということで、結びのほうでは、子供同士の実体験を通したつながりを多くの仲間と過ごさせたいという考えから、検討会の中でも、最終的に1校にすることが最善との考えだというようなことでまとめております。同じく木村議員からも、アンケートで1校に統合というのは11%。ですから、それを無視するんじゃないかというようなことの質問がありまして、これについては、当初は検討委員会の中でも慎重な意見とか、段階的な統合という意見もありましたけども、1校に統合、あるいは段階的統合、統合しないという三つのメリットデメリットで議論した中で、最終的に1校に統合することが最適である考えに至ったということを回答しております。小学校を1校統合することで地域振興とか町の発展に逆行するのではないかというような質問に対しては、小学校のあり方についても、子供たちにとっての学びの環境を整えることを第1に考えるべき重要課題ととらえて、その上で地域振興についても重要な課題として、現校舎の利活用も含めて検討していくものとの認識だというふうに回答しております。子供が歩いて通える小学校配置が望ましいという意見も出ているのに、それも無視してるのか、という質問でしたが、座談会の中でもそういった意見があることは承知しているという中で、1校に統合したとしても、子供たちの学校生活を第1に考え、子供一人一人に、伸び伸びと自己実現ができて安心安全な学校生活が送れるようにすることに変わりはないと。登下校の子供たちの安全を考慮して、おおむね2キロ以上についてはスクールバスも検討していきたいと回答をしているところです。財政面についての質問では、小中一貫校では建設補助がないと質問がありました。これは地方交付税の減額に伴う財政面への影響ということでは、歳入歳出両面から検証していく必要があるだろうと。確かに、6校あればそれぞれ1校ずつに幾らという、交付金はあるんですが、1校になればその分、単純に6分の1ということではないでしょうけども、ただ支出を考え

れば出る分もなくなっていくというようなところでのプラスマイナスも、必要になってくるだろうということです。建設費の補助については小学校と中学校の設置、整備、それぞれ、補助制度について小学校の統合について、整備の2分の1の補助があるわけですが、小中一貫校となると校舎の整備については補助対象の可能性については、今後、国の補助制度なども精査していく必要があるということで回答しております。いずれにしても小学校のあり方については、中学校も含めて、児童生徒の学びの環境を整えることを第一義的に検討して、あわせてその次に、財政面での検討が必要になり、様々な観点から検討を加え、対応していく必要があるという認識だという回答をしたところです。今の小学校、まだまだ使えるんじゃないかという質問については、河北町の学校の長寿命化計画で、河北中学校についても、昨年耐力度調査も行い、早急に対応する必要がある施設ではなく、長寿命化計画を進めながら使っていくことも可能とされていると。ただし小学校のあり方検討委員会においては、近年の急激な少子化によって、これらの校舎の老朽化と、あわせて対応していく必要があると、子供たちにとって最適な学びの環境を構築するために、できるだけ早い統合に向けて取り組むように求められたこと。既存の小学校校舎は将来の地域振興の核として大事な財産であり、様々な利活用を地域と一緒に検討していく必要があるというふうな答弁をしております。以上、口頭で分かりにくいところもあったと思いますが、議会への答弁内容です。今後も幼稚園や、こども園等の新たな保護者の方にもこういった説明をしながら、方向性の確認を考えております。これまでの経過について以上です。

森谷町長

教育長からは何かありませんか。

板坂教育長

今週の月曜日は区長会の皆さんに説明申し上げ、中学校の敷地に建てられるのかというような質問と、これまでの経過をやっぱり説明してほしいということで、今課長からあった経緯を、お答えしてます。何で一つにする必要があるんだろうか。二つで切磋琢磨したほうがいいんじゃないか、そういった御意見も出ました。やはりいろんな方々から御意見を聞いて、この素案をより良い案に変えていかなければなあというふうに考えています。

森谷町長

今、課長、教育長からもありましたが、議会での質疑については鈴木さん、木村さんからありました。録画がありますので、どんな質疑であったか、ぜひ委員の皆さんには聞いておいていただければと思います。前回の総合教育会議でも意見としても出たわけですが、統合するにしても、一つにするとか二つにするとか、どういうふうに統合するかというところかなと思ったら、その先の一步進んだ、中学校と一緒に一貫型というところまで踏み込んだ、教育委員会としての素案になっています。あと、今の小学校がもったいないという意見が地区の中でも出てましたし、議会でもありました。基本的に答申を基本的に尊重するっていうところまで理解を頂いて、具体的にどういう学校にするのかというのはその次のステップになりますが、一つにするんだとすれば、必ずどこに建てるのかなど出てきます。まずはたたき台である素案を、今後、基本的に議論のスタートとするっていうことが一つ。新しい学校をつくるんだ。新しい学校をつくったっていうことを示すんだろうと。どこにとなった場合、敷地の面積とかいろいろ考えて、あと河北中の900人を超える生徒がいた時代と今500人を割ってる時代と。今回の方向性を出して、議会のほうとしても、まず議論がスタートしたということで、これからいろんな意見出てくるだろうという感じが多かったですね。いずれにしても、さっき言ったように、まずは財政問題とか、今の校舎をどう活用していくか。やっぱりそこが大きな問題として出てきます。まずは検討委員会の検討事項や、今回の整備の素案でもあるように、まずは子供たちの学習環境をどのようにしていったらいいのかということをも方向づけて、その上で今の校舎をどう利用するのか。中学校、小学校も新しいものをつくって、町の財政は大丈夫かとか。国の補助制度とかも含めて、制度を今後精査していくという形で、今議論を進めている、そういった状況です。前は12月答申が出て、2月の中頃、整備についての教育委員会としてのたたき台として素案を出して、1か月ぐらいたつわけですけども、皆さんのほうに何か、この素案に対してこんな声が届けられてるっていうのは何か反応みたいなものはありますか。

庄司委員

地区の方からは統合となった場合の学校の活用はどうするのかとの話があります。今の親の世代から聞こえるのは、少数意見でありますけども、やっぱり統

合するべきだよねっていう話はよく聞きます。

森谷町長

今の学校はまだ使えるので活用するんだよねという意見ですよ。

槇委員

私は、ふだん交流するのは年配の方が多いのですが、やっぱり子供の登下校の姿が見れなくなる、寂しくなるという話を聞きます。子供たちとのやりとりが高齢者にとって楽しみの一つでもあるので。見守ってるっていう意識もあるんだと思います。あと残った校舎はどうするのという話は聞きます。やっぱり子供の声が聴けなくなるのは寂しいというのは聞きます。

森谷町長

世代によってやはり意見はちがいますよね。

木嶋委員

やはり賛成・反対いろいろな意見があると思います。北谷地小学校も複式になるという話を聞いたとき、最優先は子供のことを考えることで。統合することによって、地域の人との思いとかあるんですが、やっぱり当事者だなと思います。やっぱり最優先は、いろんなことを考えてみて、子供にとって1番プラスになることを考えていくと、統合なのかなと私は思います。保護者は、統合に賛成の人が圧倒的多数のような気がします。一校に統合することに賛成は11%とありましたが、あれはその何年か後にこれだけ減るっていう数字を把握していない人だと思うんだよね。私も1番最初はなんでかと思ったけれど、数字を見たとき、これやっぱり急がなければいけない問題だと改めて思ったんで、だからやっぱりそこら辺も加味して、私は小中一貫で河北町らしい特色を出せる学校になるようにこのままで進めていただければいいんじゃないかなというふうに思います。

児玉委員

いろんな話を聞きながら思ったことは、多くの方の意見、質問を聞いた後で、どうしていくのかということの一つだと思いますね。あとは、これから本当に自分事として捉えられる年代の人たちの声をもっと聞いていくとかいろいろあると思いますが、それらを全て聞いた後でどうするのか。課題となることはもう何点かに絞られてきているので、この課題については、こういう点が今問題視されてるけど、こういうことなんだと答えを準備していくことも方法の一つなのかなと思

います。同じ意見が次の会議でも同じように続いていくと、話が前に進みにくいだろうと思います。1校になり統合したとき、本当に河北町に人を呼べるのかどうかという、逆の見方も私はしたほうがいいのかあっているんです。例えば、人材を育てていく、個性を生かす教育をもっともっていかないといけないのではと。そういう子を育てるための「河北らしさのある教育」に話題をシフトしていったら、一歩先に進んだほうがいいのかと先日の委員会で話をしていたところでした。課題を整理して、急ぐべきは急ぎ、しっかり議論すべきはしてと思っています。

森谷町長

今児玉さんから御指摘あった点でいうと、一つはあえて今回、案じゃなくて素案で出したわけです。その素案というのは、検討委員会の答申よりもさらに一歩踏み込んで出したわけで。だからある意味でいうと、急ぎすぎではないかと。答申では一つにするってことだったけども、方針の素案は一歩どころか二歩も三歩も先に進んでいて、進め方が性急すぎるのではないかとのご質問があつて。議会での質疑も含めて、さっき教育長も言いましたけども、各地区の説明、区長さん方への説明プラス、これからのいわゆる学校の当事者になる人たちの意見を引き続き聞いて、それを踏まえて河北らしい教育っていうのはどこを目指していくのかを今回の意見も踏まえて方針には書き込んでいくべきだと思うんです。毎年の出生数の状況、子供たちにこの河北町で良い教育をするために、望ましい学校の姿を作っていく。河北らしさを出すこと、それを前提としてどういう教育を目指しているんだということを深掘りしていけばいいと思います。今後の進め方ということで、教育長からお願いします。

板坂教育長

先ほど出ましたが、いわゆる自分事として考えられる保護者への説明会を4月の入学式とかあとPTA総会とかあるわけですが、その方々向けに実施できるよう現在交渉しているところです。なるべく多く実施したいなと思ってます。幼稚園など、保護者の方々に説明して御意見を頂き、そのあと、やっぱり今あったような経過報告も含めて5月に再度、教育委員会と総合教育会議等を開いて、方針「案」にしたいと考えております。その案を皆様にお示しして、教育委員会で決めていただきたいということと、それを受けて、またこの総合教育会議で、町長

も含めて決めたいと考えています。その案が固まったら厚生文教、あるいは全員協議会で説明し、議員の方々にも理解をしていただき、その上でパブコメをする。6月議会、それが間に合わなければ、ちょっと延びるかもしれませんが、遅くとも9月議会あたりで承認を得て、その方針をもとに、基本設計、実施設計に移っていきたいと思っています。もし認められれば、小中一貫校一体型の学校として、具体的なイメージが出てくるわけです。そしてそのイメージに伴って財政面も出てくるかなと思いますので、その辺をあわせて、総合教育会議で決定してもらって、最終的には、町長決断でそれを議会に提出するということになるかと思っています。

森谷町長

今整備に向けた基本方針なんですけど、基本方針は教育委員会の方で最終的に案を取っていくと。議会にも説明し、町民の方へということでパブリックコメントも含め、説明会も必要です。具体的に、今の方針が仮にそのままだった場合に、中学校の敷地が合計5ヘクタール位ですので一体型に整備していけば、何とか建設できるんじゃないかと。そうなるとおそらく建設・設計のプロも入れて、基本計画を作るために予算が必要になってくると思います。当然予算が必要になってくれば議決が必要になってきますので、その予算を6月議会か9月議会になるのかですけども、それを通していただけるような基本方針にしていく必要があるだろうと。あと課長からもありましたが、義務教育校に準じた形で併設型の一貫校も、国の対象にして欲しいと提言をして行くとか、可能性があるかわかりませんが、制度的な面からも考えていかなければと思うんです。そういった課題を整理しながら、案をつくっていく必要があります。河北らしい教育とはいうところを町の教育振興計画にも反映していかなければならないし、あと新校舎をどうするかとあわせて既存校舎の活用も含めると、これからの河北町のまちづくりに関わる非常に大きなポイントになりますので、総合計画にもきちっと反映していかなければならないと思うんです。だから予算面の議会、総合計画、教育振興計画への反映を進めながら、ハード整備を検討して具体的に検討していくっていうことになります。今日頂いた御意見も踏まえて、また次回の総合会議に向けて、最終的な整備方針に向けた案をご理解いただけるように進めていければと思いますので、よろしくお願いいたします。ちょっと一方的な説明になりましたけど

も、今後の進め方について、もし御質問あれば、お願いしたいと思いますけどよろしいでしょうか。それでは、本日の協議は以上となります。ありがとうございました。

4 その他

5 閉会

古澤係長

これをもちまして、令和5年度 第2回河北町総合教育会議を閉会いたします。

～午後4時45分